

グリーンカルチャー



# こゝろか

発行 | 甲賀農業農村振興事務所  
農産普及課  
住所 | 〒528-8511  
甲賀市水口町水口6200  
電話 | 0748-63-6126  
発行責任者 | 河村 久紀



## ■ 甲賀地域で今、ブドウとナシの生産が増えています！

甲賀地域産の果樹を望む声から始まったブドウとナシの栽培は、初期投資を抑えた低コスト棚、作業労力を軽減したブドウ改良仕立て栽培やナシ低樹高栽培といった新技術を活用しながら、広がっています。

今回は甲賀地域で導入されている新技術の概要について紹介します。





# 新技術で果樹栽培にチャレンジ！

甲賀の果樹栽培は、ブドウやナシを推進品目として平成25年から地域一丸となって取組を進め、定年帰農者や法人経営体を中心に栽培が行われています。最近では、農福連携の取り組みや若手の新規就農者など新たな栽培者もみえ、生産が拡大しています。

収穫されたブドウやナシは主に直売所や自家販売で販売量が年々増加し、消費者から好評を得ています。現在では、地元量販店への出荷にもチャレンジしています。

## ◆自分で施工が可能な「低コスト果樹棚」

滋賀県で推奨している「低コスト果樹棚」は、園芸店などで市販されている直管パイプや接続金具を使用して自分で施工することができます。従来の果樹棚の約1/3の経費で建設が可能で、果樹栽培で負担の大きい初期投資を抑えることができます。

また、「低コスト果樹棚」は、ほ場の形状や面積に合わせて導入できるため、小面積からでも栽培を始めることができ、後から増設することも可能です。



実際に導入されている簡易棚

## ◆「改良仕立て栽培」について



「低コスト果樹棚」と合わせて「改良仕立て栽培」を勧めています。

「改良仕立て栽培」は主な管理を顔の位置で行えるため、肩がこりやすい上向きの作業を減らし、軽労化を図ることができます。

また、一文字型に伸ばした主枝から結果枝を出すため、作業の方向も直線的に行うことができ、管理しやすい栽培方法です。



顔の前で作業が可能

## ◆「低樹高栽培」について



低樹高栽培は、主枝を1mと低い樹高とし、そこから果実をつける結果枝を伸ばす樹形です。低樹高栽培のメリットは、①樹高が低いため、手の届く範囲に果実が成り、栽培管理・収穫が行いやすい、②従来のナシ栽培と比べ、成園（枝が十分に伸び、目標の収量が取れる状態）になるのが早く、早期から十分な収量を確保することができる、また、③従来のナシ栽培と比べ、枝の配置方法がシンプルであるため、せん定作業を行いやすいことです。



自然な立ち姿で作業ができます



# 小麦新品種「びわほなみ」について

これまで小麦の主要品種として栽培されてきた「農林61号」は倒伏し易く、病害被害等から収量・品質が安定しない等の問題があり、実需者からはより製粉性に優れた品種への転換が望まれていました。

この新品種は滋賀県が推進しており、県内では令和2年から品種転換が始まっています。

J Aこうか管内では、令和5年の秋播きから、「農林61号」から「びわほなみ」への作付へと品種転換が行われます。

「びわほなみ」は、「農林61号」より倒伏しにくく、増収が期待できます。さらに、収穫時期が早く梅雨入り前に刈取作業ができるほか、製粉適性も優れており、実需者のニーズにもマッチしています。

## ■ 「びわほなみ」の特徴

「農林61号」と比較して

- ・穂数は20%、収量も20%多い。
- ・成熟期が3～4日(6月初旬～)早く、稈長が短く、倒伏しにくい。
- ・日本麦の製粉適性が高い。



## ■ 「びわほなみ」の栽培のポイント

◆ 凍霜害や病害の発生リスクを軽減するために、播種時期を少し遅らせませす。

中山間地の目安: 11月5日～  
平坦地の目安 : 11月10日～

◆ 茎立期(2月中・下旬位)に穂肥を施用します。

穂数と1穂粒の増加による増収効果!

◆ 赤かび病の防除は基本2回防除

良品質麦の生産!



## 濁水防止！田植えまでの基本技術

毎年、4月中旬から5月下旬の代かき、田植えの時期にかけて、水田から流れ出た濁った水が河川に流れ込み、琵琶湖の濁りの原因となっています。水稻を栽培されている全ての農家の皆さんが、下記の基本技術を再確認し、農業排水対策に取り組んでいただきますようお願いします。

- 丁寧な均平作業
- 畦、排水口の漏水対策(畦の亀裂や穴を補修、止水板の設置)
- 浅水代かきの実施(土が7～8割見える状態で代かき)
- 代かき前、田植え前は水を落とさない  
(計画的な作業により強制落水をしない)





## 切り花リンドウの栽培を始めませんか？

リンドウは、初夏から秋にかけて主に鮮やかな青紫色の花をつける宿根草で、近年ではお盆や秋の彼岸にお仏壇やお墓にお供えする「仏花」として需要が増えています。

1株から複数の芽が立ち、株が大きくなるほど芽の数が増え、切り花の本数も増えます。苗を定植した1年目は収穫せず株を養成します。2年目から収穫が始まり、定植して5年目(4作)まで植え替えせずに収穫ができる省力的な品目です。

草丈は1mほどになりますが、仏花用として切り花長60cm程度に茎を短くし、1株あたり多く収穫できる栽培方法を勧めています。

栽培には、有機質に富み、粘質で保水力のあるpH5.0～6.0程度の酸性土壌(=元水田)が適していることから、作業性が低い不整形な農地等の活用に向け、リンドウ栽培を推進しています。

売上額の試算では、1aあたり、栽培2年目で100,000円、3～5年目は200,000円程度が見込めます。

リンドウに関心を持たれた方は、ぜひ当課までご連絡ください。



## 関西茶品評会で甲賀産茶が続々上位入賞！

関西茶品評会の審査会が8月3～5日に甲賀市で開催され、「普通煎茶」の部で甲賀市の洞重則氏が、「かぶせ茶」の部で同市の片木享央氏がそれぞれ1等1席の農林水産大臣賞を獲得されました。

また、各市町の上位3点で競われる産地賞も「普通煎茶」の部、「かぶせ茶」の部とも甲賀市が堂々の第1位となるなど、甲賀産茶のレベルの高さを内外に示す結果となりました。

農林水産大臣賞を受賞された農家からは、「皆様のおかげで念願がかないました。」との喜びの声が聞かれました。またこれまでの手摘みに加え、今回から新たな取り組みとして、機械摘みによる出品を行いました。その結果、機械摘みによる出品でも上位入賞できるなど、今後に向けて大変有意義な大会となりました。



茶の水色審査の様子

祝

「世界農業遺産」認定！

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業

森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム

